Biotope

昔、人間は水と共にあり・・。

ほんの40年前まで、小川や井戸は生活の中心でした。上下水道が普及した今、そのような光景は過去のものになりました。小川はフェンスやガードレールに囲まれ、訪れる人もいません。人間の意識は確実に川から遠のいています。そのため、家庭排水などによって川の汚染に手を染めてしまっていることに気付きにくくなっています。かといって、現在の生活を川の水を飲んでいた頃の原始的なレベルにもっていくことも不可能でしょう。上下水道の整備で取り返しつつある清流、家庭排水に代表される個々の少量ずつだが数の多い汚染源を断つには各自の川に対する意識の向上が必要になってきます。

私の住んでいる、広瀬川に接した「滝の瀬団地」でも例外ではありません。下水道の主管が設置されてはいますが、接続工事をしている家庭はあまり無く、現段階では家庭排水がそのまま川に流されています。現在浄水場で主流のろ過方法では、合成洗剤などの有害な水溶性の化学物質を完全には除去できません。それどころか消毒の過程で、人体に蓄積し悪影響を及ぼす物質が発生する危険性もあるのです。川の汚染は自分自身の体を危機に陥れることと同義です。

衛生や利便性と引き換えにブラックボックス化された川をもう一度私たちの目に見える自然として取り戻すことはできないでしょうか。そこで、私たちは次のような提案をします。

MNCT

Biotope

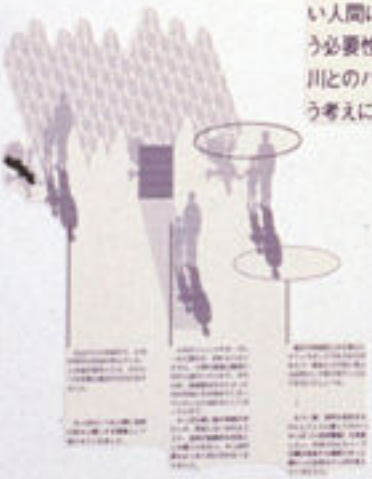
清流かっぱ祭

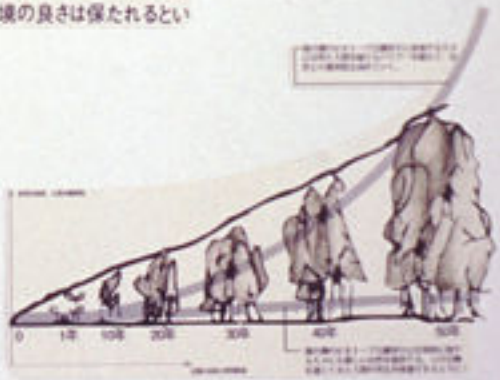
水、かっぱ、人間を繋ぐもの・・・。

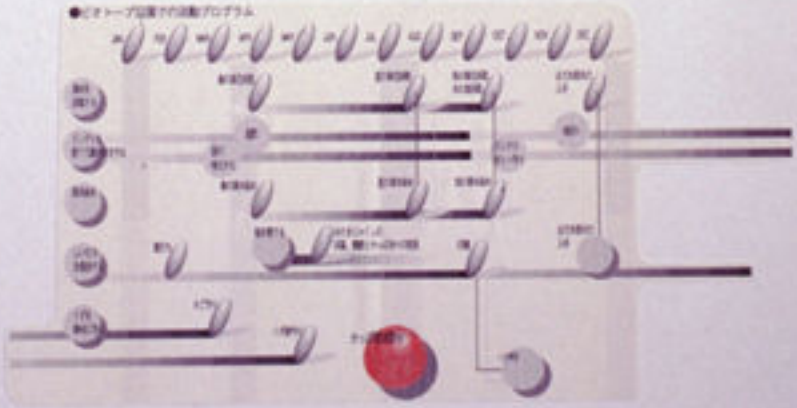
広瀬川の健康度（水質）は仙台市民の健康に直結している」という視点から、"親水度"を向上させるプログラムとそのステージとなる住民が手作りする自然公園をデザインすることにしました。

環境運動は、目指すものが抽象的になりやすく、偏狭なイメージを持たれがちなので、私たちは、年間を通じて参加者が自ら楽しく自然に親しめるようにしたいと思いました。夏にはプログラム全体を象徴する要素を盛り込んだかっぱ祭りを行う計画を立てました。このお祭りは、滝の瀬団地が出来て以来行われているものですが、"水の守り神としてのかっぱ"を考えるという本来の意味にたちかえり、名称も「清流かっぱ祭り」として再構築することを考えました。また、日常的には、水（自然）と関わる行事を季節にあわせて連続的に開催していくことにしました。その舞台となる場所は、これから水に親しもうという人でも抵抗なく自然を学べるように設計しました。

しかし、親水性の高い人間にとっては入りやすくても、低い人間には入りづらい構造を水辺の整備の中でとってもらう必要性もあると感じています。これは、物理的には人間と川とのバリアーは高いほど川の環境の良さは保たれるという考えに根ざしています。







MNCT

Biotope

清流かっぱ祭

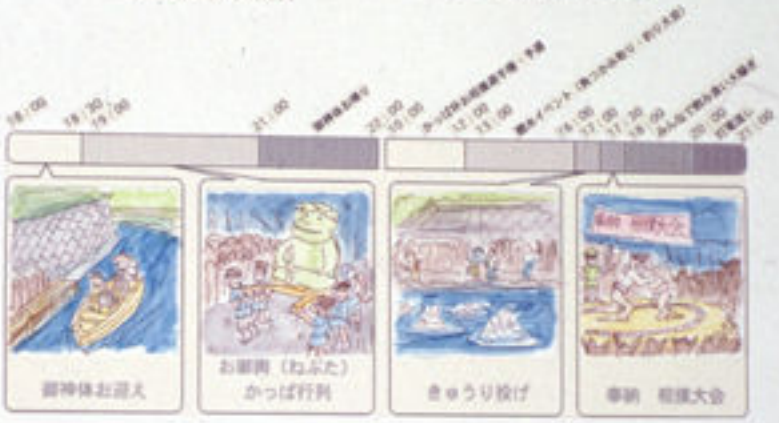
MNCT

清流かっぱ祭り

Biotope

私が小学生の頃のかっぱ祭りは、土曜日の夕方から前夜祭をして、日曜の午前にお面流かつぎをやっていました。でも、今のかっぱ祭りは土曜日だけで全部終わらせてしまいます。前夜祭は、わくわくするのでやっぱりやりたいです。だから今回のプロジェクトでのかっぱ祭りも２日間に分けてやりたいと思います。

現在のかっぱ祭りには、最近海の家に引っ越してきた人たちがほとんど参加していないようです。私の頃のかっぱ祭りは、夏休み最初の一大イベントというかんじで、他所から友達を前夜祭に呼ぶのが小学生のステータスだったのです。今回の「清流かっぱ祭り」にも、海の家の住民だけでなく、他所からのお客さんも呼んできたいと思います。とは言ってもあまり変化しないで、知る人ぞ知る〜みたいな感じの、落ち着いた風情のあるお祭りにもしたいです。



MNCT